



平成28年11月24日
海上保安庁

エキスパートと共に海の安全推進活動を展開！

～初の取組み！「海の安全推進アドバイザー」制度の導入～

海上保安庁海の安全推進本部において、海の安全推進アドバイザー制度を導入します。同制度は、多様化するマリンレジャーについて専門的な知見を持った方等を海の安全推進アドバイザーとして委嘱し、同アドバイザーの助言を活用した、効果的な海の安全推進活動を展開する制度です。

現場における海上保安官の安全指導能力を向上させ、安全対策をより一層深化させていきます。

下記のとおり海の安全推進アドバイザー委嘱式を実施いたします。

記

1 委嘱式

(1) 日時

平成28年11月29日（火）午後2時から

(2) 場所

中央合同庁舎3号館11階海上保安庁会議室

(3) 内容

- ・委嘱書伝達式
- ・写真撮影

2 委嘱者

別添1のとおり

3 海の安全推進アドバイザーの主な活動内容

アドバイザーの専門分野についての講演を実施していただくとともに、近年の海難状況を踏まえ海上保安官との意見交換会を実施予定としています。

4 委嘱期間

委嘱の日から平成30年3月31日まで

(委嘱期間は原則として毎年4月1日から3月31日までとしますが、年度途中で委嘱した場合は、その期間を委嘱日から翌年度の3月31日までとしています)

「海の安全推進アドバイザー」 予定者（五十音順、敬称略）

- 日本ライフセービング協会理事／溺水プロジェクト本部長
・石川 仁憲（いしかわ としのり）氏



○活動概要

日本ライフセービング協会溺水事故防止プロジェクト本部長として、離岸流や飲酒に関連した水難事故を防止するため、「Water Safety キャンペーン」や「飲んだら泳がないキャンペーン」の実施、水辺の溺水事故や海水浴場のリスク管理に関する調査・研究の実施など「水辺の事故ゼロ」を目指した活動を展開している。

- 海洋ジャーナリスト
・内田 正洋（うちだ まさひろ）氏



○活動概要

（公社）日本カヌー連盟レクリエーションカヌー協会理事、（株）モンベルアドバイザー、東京海洋大学講師。1997年に日本初となるシーカヤックのノウハウ本「シーカヤッカーズ・ハンドブック」を出版する等、日本のシーカヤック教育の第一人者として大学生をはじめ、広く一般に対しシーカヤックや環境教育の普及に努めている。

- 小型船舶のエンジンに関する専門
○（一社）日本舶用機関整備協会業務部長
・正一 喜男（しょういち よしお）氏



○活動概要

（一社）日本舶用機関整備協会業務部長として、漁船、プレジャーボート、旅客船などの機関事故防止を目的として、各地の漁業者、プレジャーボートオーナー、旅客船の乗組員を対象として、機関事故防止研修会を開催すると共に、機関事故防止の基本である定期メンテナンスを行うことを推奨するなど、小型船舶の機関事故防止の推進を行っている。

- 水上オートバイインストラクター
○公益財団法人マリンスポーツ財団 嘱託 安全運航教育員
・山岡 宏（やまおか ひろし）氏



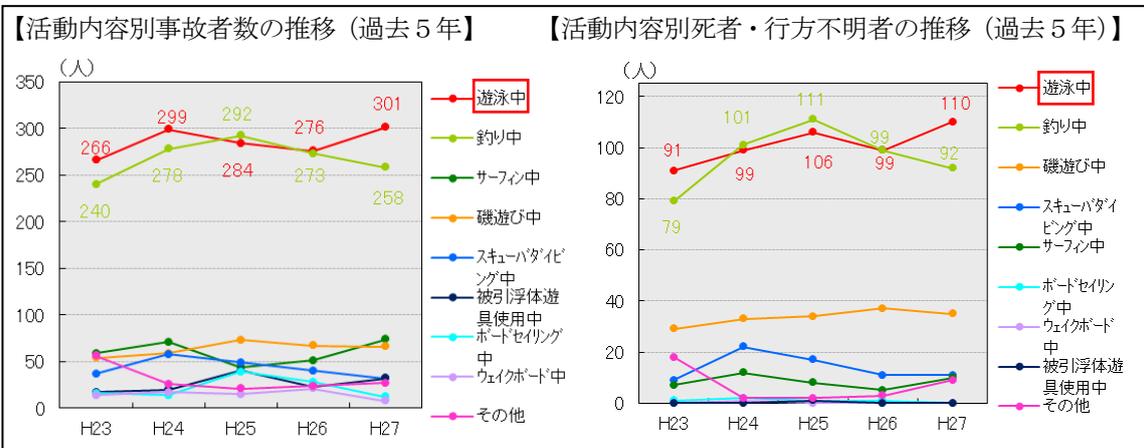
○活動概要

公益財団法人マリンスポーツ財団の内部組織であるK38 JAPANのインストラクターとして、海楽園ハーバー（マリーナ）を運営する傍ら、一般に対する水上オートバイのレスキュー講習のほか、消防や運輸安全委員会の職員を対象にした安全運航講習などを全国で実施している。

1. 遊泳中の事故について

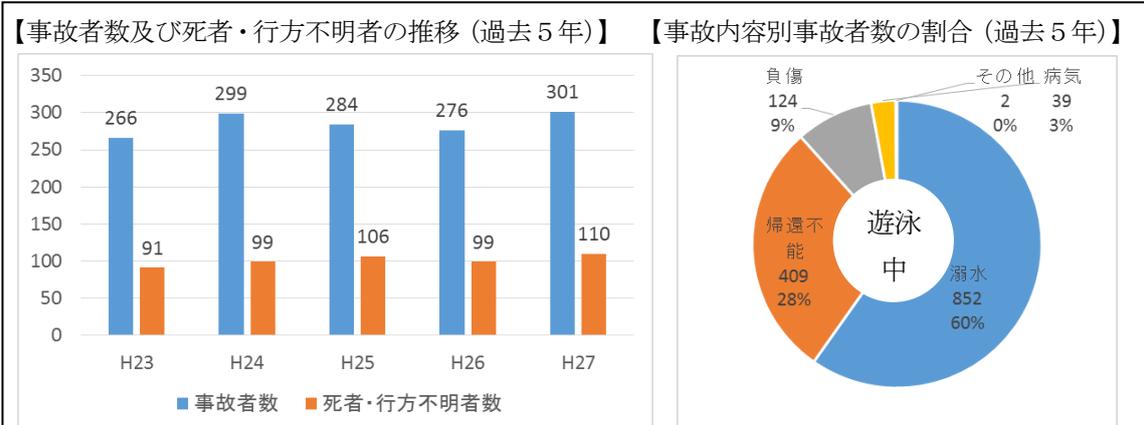
(1) マリンレジャーに関する海浜事故について（過去5年間）

マリンレジャーに関する海浜事故を活動内容別にみると、遊泳中と釣り中が多く、死者行方不明者についても同様となっています。

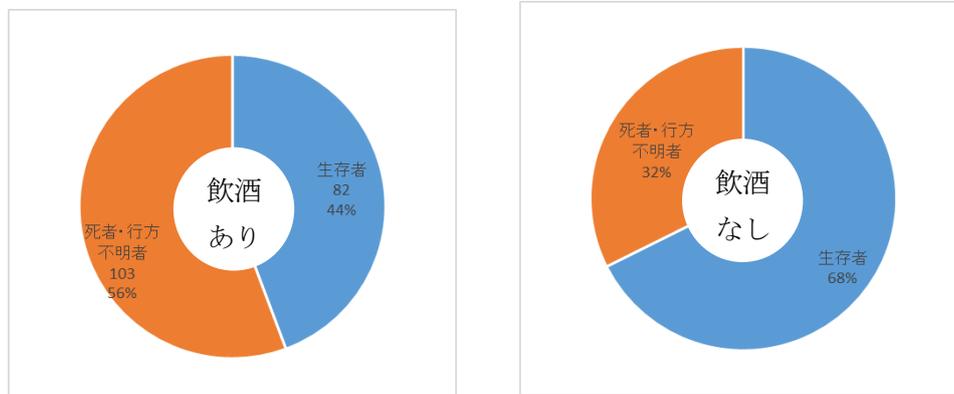


(2) 遊泳中の事故について（過去5年間）

遊泳中の事故内容別にみると、海水誤飲などの溺水が最も多く、飲酒をしたの死亡率は飲酒をしていない場合と比べ死亡率が高くなっています。



【飲酒をしての遊泳による事故者の死亡率（過去5年）】



2. プレジャーボートの機関故障事故（機関故障、過放電、燃料欠乏）及び船型別事故隻数（過去5年間）

過去5年間のプレジャーボートにおける機関故障等（機関故障、運航阻害（過放電及び燃料欠乏のみ）をいう。）は、プレジャーボートの事故隻数の約3割を占めています。

また、過去5年間のプレジャーボートにおける船型別の事故隻数では、水上オートバイが422隻、シーカヤックで165隻となっています。

